

【奈良文化幼稚園】平成30年度 学校評価 自己評価書 I 教育活動に関するもの

教育目標	1. 健康で 元気に 満ちた 子どもに育てる。 2. 感受性や 創造性の 豊かな 子どもに育てる。 3. ひとり立ちができ 誰とでも仲良く遊べる 子どもに育てる。
------	---

項目ごとの評価(中・小項目とも)4段階評価 A:極めて達成度が高い B:概ね達成できている C:課題を残している D:課題が多く速やかな改善が必要

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	総合評価	評価の観点・理由	課題及び改善
I 教育活動に関するもの	(1) 教育目標・教育計画・教育課程	①教育目標の設定	園の教育理念や教育方針を理解し共有できたか。	「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を実現する取り組みを行う。また本園の目指す、わんぱくの森を軸とした「遊び中心の教育」の実現に努め、教育目標の焦点化を図った。	B	A	園内・園外の園庭研修会に積極的に参加し、教員間で情報を共有するよう努めた。そして、そこでの学びを本園での実践と照合し、子ども理解を深めた。	研修時間の確保が今後の課題である。実践例を話し合う機会は理解に繋がるので、日常のコミュニケーションの中でも展開していきたい。
		②教育計画の作成	園の方針を教育計画や保育に活かし、体力づくりと遊びの環境の充実に重点をおけたのか。	第IV期整備工事(総合)を行う。また出来上がった遊び場での子どもの動きや様子を観察し、検討・調節をした。	A		日々の子どもの動きを観察したり、写真や動画を活用し、気付いた点や改善ポイントなどについて外部講師を交え、話し合う場を持つことができた。	日々の子どもの動きをよく観察し、更に園庭が深化し、発展できるように努めたい。また活動的な遊びだけでなく、ほっと一息つける、安らぐ環境も充実させていきたい。
		③教育要領に基づいた教育課程の編成	発達の特徴を踏まえ、園生活全体を通して具体的なねらいと内容を組織できたか。	「わんぱくの森」整備と並行して、教育内容を練り直し、新しい教育課程を作った。	B		各学年、学期ごとの具体的な教育課程を作成することができた。	学年、学期ごとの見直しはできたが、園生活全体を見通した内容にするにはやや不満が残った。
		④教育活動の評価	園の目指す幼児の姿を具体的に共有し、園長を中心に教職員で協力して、その実現に向けて教育活動を行ったか。	一人ひとりの子どもが主体的に活動し、精一杯の力を出し切れる保育内容を教職員で検討した。	A		日々の園生活で子どもの実態把握に努め、学年会議や職員会議で目指すものを共有し、それに応じた保育内容にすることができた。	他学年の状況にも目を配り、在園期間全体を見通して実践する教育活動に高めていきたい。

I 教育活動に関するもの	(2) 指導の状況	①基本的な生活指導	正しい生活習慣の大切さを知らせ、自然と身につくようにする。 家庭と連絡を密にしなが ら、取り組むことができたか。	個々のペースを見守りながら、団体行動の大切さや望ましい生活習慣の指導に努めた。	A	A	個々をよく理解してそれぞれに合った援助方法を考え、実施することができた。 また学期末懇談以外にも毎月のお帳面などを通じて一人一人の様子を丁寧に家庭に伝え、連携して進めることができた。	一人ひとりの家庭環境の違いや個性をよく理解しながら、必要な習慣を身につけることができるよう指導する。また個々の現状や目標を随時家庭と共有するよう心掛ける。
		②環境を通して行う活動の充実	見通しを持って計画的な環境の構成や活動の展開に応じて環境の再構成ができたか。	日々の観察から子どもの興味・関心を捉えて、意欲が育つ環境を工夫した。	A		子どもの実態をよく把握し、新しい環境を活かした保育、また四季を大切にしたい保育を展開した。	子どもに寄り添い、興味や関心をもっと引き出す環境を更に工夫したい。
		③個や発達段階に応じた指導	一人ひとりの実態や内面を理解する指導法の工夫ができたか。	個々の発達の特徴を把握するよう努め、その時々での指導の重点を押さえ指導することができた。	A		個々の発達状況を理解し、指導によって段階的に成長していく様子を感ずることができた。	その時その時の指導にとどまらず長期的展望を持った指導を全教員ができるように心がけ、園全体で一人ひとりの発達を見守っていききたい。
		④遊びを通しての総合的な指導	幼児が主体的に活動したり、充実感を味わったりできるような指導を行うことができたか。	子どもが自ら試したり、考えたり、気付いたりできる遊び環境を整備した。	B		子ども達がやってみたいと思う保育計画を工夫、実践したが、時間的な制約から子どもの主体的活動という部分には欠けるところがあった。	時間的余裕があれば、より子どもの心の動きに合わせて展開できるが時間に縛られてしまうというケースがあった。
		⑤園行事	園児主体の行事運営ができたか。	「子ども主体の行事」となっているかその必要性から内容までを検討し、厳選した。	B		行事一つ一つのねらいや目的を見直し、子どもの生活を一番に考えて精選、実践した。	行事のねらいや内容は子ども主体に運営できたが、当日までの取組において計画性に欠け、教師主導になっていなかったかという点に反省が残る。
		⑥体力作りを目指す取り組み	子どもを夢中にさせる運動遊びを展開する。	体力作りのための運動遊びを日々の生活で重ね、またそれが実際に体力作りに繋がっているかを専門の先生を招いて体力測定を行った。	A		発達段階に応じた運動遊びを展開した。またその経験を運動会で活かす競技も行うことができた。体力測定の結果を保護者と共有することで、運動遊びによる体力向上を数値で示すことができた。	秋以降は運動遊びの実施が減少しがちなので、一年を見通して実施できるようにしたい。またプログラム内容を子どもたちがもっとやりたいと感じるよう磨きをかけたい。
		⑦地域での教育活動の充実	地域に出かけ、地域を知り、地域の中で活動し、感じる機会を大切にできたか。	時計屋見学、お店屋見学など園を出て地域と交流する保育活動を実施した。	B		学年ごとに経験させたい内容、時期を実施の有無も含めて再検討した。社会見学的なものではなく、日常の地域の良さを感じられる機会を盛り込むことはできなかった。	地域コミュニティの一員として、地域のひととの繋がりや、その中で生活している自分たちという意識から、助け合い、思いやり、親切の大切さを感じられる保育内容にしていきたい。

		⑧夢中になって遊び込み、意欲の育つ遊びの充実	質の高い遊び環境を設定し、自由に選択する機会を充実できたか。	子ども自身が目標を持つことができ、考えながら遊ぶ環境作りに努めた。	A	遊具や玩具だけでなく、遊ぶ場所(静かな場所、隠れられる場所、みんなの様子が一望できる場所など)も自ら選択し、自分のしたいことにより夢中になれる環境を作り出すことができた。	子どもの動きの観察から、どのような環境が必要か見えてきたので、よりよい環境作りに努めたい。
		⑨絵本やおはなしに親しむ取り組み	絵本やおはなしを1日1回子ども達が楽しむ機会をつくれたか。	保育時間の中に絵本に親しむ時間を設け、より身近に感じられるように心がけた。	A	子どもたちが、クラスの仲間と一緒に絵本の時間を楽しむようになった。その時間の大切さが教師にも浸透した。	更により絵本の精選に努めたい。また絵本の貸し出しも充実したものにしていきたい。
		⑩特別支援体制の充実	教職員間で支援が必要な子どもについての実態や課題について共通理解できる体制づくりができたか。	臨床心理士による行動観察を園内で実施し、その結果をもとに配慮を要する子どもについて共通理解を図った。	A	配慮を要する子どもの様子や援助方法については学年で相談し、園長に報告して共通理解のもとに保育に当たることができた。	他学年の子どもについても目に付く部分の理解にとどまらず、クラス内での様子を全職員が共有して質の高い援助ができるよう努めたい。

【奈良文化幼稚園】平成30年度 学校評価 自己評価書 II 幼稚園経営に関するもの

項目ごとの評価(中・小項目とも)4段階評価 A:極めて達成度が高い B:概ね達成できている C:課題を残している D:課題が多く速やかな改善が必要

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	総合評価	評価の観点・理由	課題及び改善
II 学校経営に関するもの	(1) 組織運営	①組織の一員としての在り方	教職員全員でひとつのチームであることを意識している。	園運営や行事の目標に向けて全員で取り組むことはできた。	B	B	それぞれ担当ごとに責任をもって役割を果たしているが、日頃の保育と並行して準備するため、細かい点まで目が届いていないことがあった。	各行事の取り組みに対して、細かい点まで意識して準備等の段取りをしていかなければならない。
		②幼稚園経営目標・方針	具体的な経営目標、実態、数値目標について、共通認識でき、募集活動を積極的に行う。	募集の係を限定せず、全教職員が体験入園、地域のイベントといった広報活動に参加して募集に携わった。	A		出願開始日に、予定していた定員数が埋まる好調な募集状況となった。	園庭が完成し、より魅力ある幼稚園づくり、また、保護者が自信を持って知人に薦めてくれる幼稚園にするため、保育内容の充実を図る。
		③教職員の適正配置と職員の運営への協力意識	園長や主任に報告・連絡・相談を行い、議論の上決定したことには、協力し実行している。	必要に応じ、報告・連絡・相談して力を合わせることを全教職員が意識して業務に当たった。	A		行事担当教員以外も進捗状況を随時把握して、必要なことを気づいた教員が動く協力体制をとれた。	誤った理解がないようにしっかり意思疎通を図っていかなければならない。
		④園務分掌等の連携	各委員会、係で必要に応じて協議、分担して、効率よく運営を進めた。	必要によって分担することで円滑な園務遂行を図ったが、分掌により、十分に機能していないことがあった。	B		指摘されてから動くなど、事前の準備が不足して効率よく計画的に実施できないケースがあった。	教職員全員が常に全体を見渡して、不足している部分、遅れている部分に目を配り、協力できる体制を整えて行きたい。
		⑤会議の運営と位置づけ	定期的に職員会議を行い、教職員相互の共通理解に基づく運営をしている。	必要に応じて教職員が参加する職員会議を開いて共通理解を図った。	C		会議で決定した内容について、変更があった場合、しっかり情報伝達ができていないことがある。	会議での提案の仕方を工夫し、検討事項を絞る必要がある。その上で、個々の意識を変え、積極的に意見交換できるようにしたい。
		⑥職場の人間関係	教職員全員と親しくつき合い、偏った人間関係を作っていない。	親睦を深める場を定期的に設けるなど、コミュニケーションを大切にできた。	B		意見交換することで視野が広がり、様々な立場の様々な視点の教育観に触れることができた。	これからも積極的な意見交換ができるような環境を整え、更なる園の充実化を図りたい。

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	総合評価	評価の観点・理由	課題及び改善
II 学校経営に関するもの	(2) 研修	①園内研修	自園のテーマや重点項目等を決め、継続的な研究を行い、教育内容の質の向上や改善を図っている。	わんぱくの森の活用に向けて外部講師を定期的に招き、園内研修会を実施した。	A	A	外部講師を招き、教職員に保護者も交えて研修を実施した。子どもの危険察知能力や本能の引き出し方など、具体的な例に触れながらわかりやすく学べた。	保護者を交えて研修する機会を増やすことで、園庭に関する理解やコミュニケーションを図り、愛着ある幼稚園にしていく。
		②園外の研修への参加	今日的課題に関する研修や研究に関心を寄せ、出来る限り積極的に学習の機会をもつ。	わんぱくの森計画を充実させるための園外研修に積極的に参加した。	A		他園の取り組みを知ることで、本園の恵まれた環境下で新しい保育に取り組む姿勢が教職員にみられた。	園庭の維持管理方法など、他園がどのようにしているかなど学び、取り入れていきたい。
		③研修成果の普及	個人の研修成果を保育や行事の中で生かし、園全体の教育力の向上を図る。	研修で学んだことを園で報告し、教育目標に沿った形で本園に取り入れることができるか全員で話し合った。	B		研修実施により、園児の活動状況に合わせた保育指導について引き出しが増えた。	園児の成長及び進化に目を配り、教員一人一人が工夫した園庭遊びを繰り広げられるようにしていく。
	(3) 安全管理	①安全計画の立案	危機を想定し、子どもとともに訓練を実施する。	危機管理マニュアルに基づいて訓練を実施した。	A	A	警察協力で教職員対象に不審者対策を実施した。どのように対処するかを実践したことで、問題点が見え、意識・環境の改善に繋がった。	教職員一人一人が自分の役割をしっかりと把握して、子どもの安全第一を考えていく。
		②安全指導実施状況と改善策	教職員、園児を対象に、確認、指導上の上、改善に努めている。	火災・地震など様々な場面を想定した訓練を行うことができた。	A		様々な状況を想定した訓練を実施することで安全指導の改善を図ることができた。	今後も定期的に避難訓練を実施し、子どもたちの意識向上に繋げる。
		③危機管理マニュアル	学園としての危機管理計画に基づき、自園の防災計画を見直す。	危機管理マニュアル及び園の防災計画を見直し、特に教職員の役割分担を徹底して確認した。	A		書面上にとどまらず、実際の訓練で感じた小さな疑問や問題点を話し合い、共通理解の上で解決することができた。	教職員が状況に合わせた迅速な対応ができるよう取り組んでいきたい。
		④関係諸機関との連携	警察・消防署・市役所等公的機関との連携を図る。	消防署や火災報知器業者と一緒に確認する、などの連携をとった。	A		消防の方から実際に指導を仰ぎ、安全対策や緊急時の対応を学ぶことができた。	昨年同様、定期的に取り入れることで、対応の仕方を確認しながら指導も受けることが出来るので、今後も関係諸機関に協力いただく。

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	総合評価	評価の観点・理由	課題及び改善
II 学校経営に関するもの	(4) 保健管理	①健康診断の立案と実施(関係機関との連携)	保健所・園医との連携を図る。	園医との綿密な連携の下、園児の健康状態について指導を受けた。	A	A	園医と密に連絡を取って相談することで、状況に即応した対応をとることが出来た。	今後も、子ども達が安全に健康に生活できるように、園医や保健所との連携を図っていく。
		②家庭との連携	流行病や予防策など保健だよりで伝える。	園からのお便りで、考えうる流行病の予防策や、日常の手洗いうがい消毒を実施していることを伝えた。	B		流行病による対策及び情報について、保護者に緊急連絡メールで報告するなど、随時周知することを心掛けた。	流行病に関する情報について、保護者が知りたいと思う情報は迅速に流していく。
	(5) 地域との連携	①地域との交流	「開かれた幼稚園」としての取り組みを計画、実践する。家庭、地域との連携の機会を計画、実践する。	園庭開放や地域との交流(商店街での園外教育等)、また、地域イベントにも積極的に参加し、交流を深めた。	A	A	きちんと元気な挨拶をするなど、披露する以外の部分もしっかりしていると評価をいただいた。	行事の質だけではなく、きちんと挨拶するなどの基本的な部分の質も高めていく。
		②PTAの活性化	本部役員、クラス役員、各クラブとの連携を強化する。	PTA役員には大きな行事(運動会・バザー)で協力してもらい、PTAのクラブ活動も園の行事に組み入れて発表の場を提供するなど連携を強化した。	A		本部役員、クラス委員が積極的に行動して教職員並みの協力をしてくれた。	園の行事内容を早めに計画・準備して、連携を取りやすい環境にしている。
		③幼小連携	今日的課題に向き合い、就学に対する不安を解消する。	小学校の連絡会等に参加してその結果を持ち帰り、子どもたちの就学に対する不安解消に努めた。	A		次年度から小学生ということもあり、就学に向けた適切な教育をすることに努めた。	就学先は多数にわたるので時間が費やされるが、子供たちが安心して就学できるように、情報共有を行っていく。
		④関係者評価の実施	保護者アンケートの結果を知らせる。	3学期に保護者から園の保育内容に関するアンケートを実施し、結果報告を行った。	A		自己評価及び園教育アンケートを基に、学校関係者評価を実施し、本園が取り組んでいかなければならない改善点が見つかった。	関係者評価の結果を教職員がしっかり理解し、改善に取り組む。
	(6) 施設・設備	①施設、設備の管理	責任をもって、清掃・点検・後始末をする。	各学年で担当箇所を決めて清掃や点検を行っている。	A	A	各学年、きれいな環境を整えるなど、責任をもって取り組むことができた。	子供たち自身が環境に対する美化意識を持ち続け、担当場所を毎日確認し、維持できるようにする。
		②遊具、用具の活用状況と全体管理	安全に活用できるように点検、整備をする。	園児が登園する日は保育が始まる前に、遊具の安全点検を行い、速やかな修繕対応ができた。	A		教職員で遺漏なく点検及び修繕をしている。園児の安全を第一に点検に取り組んでいた。	教職員で修繕できる部分と専門業者に委ねる部分をはっきり区別する。

大項目	中項目	小項目	目標及び具体的な評価項目	取組と成果	評価	総合評価	評価の観点・理由	課題及び改善
II 学校経営に関するもの	(7) 情報管理	①公文書の收受、保管	分類して、必要な時にすぐ出せる状況にする。	分類して文書を保管し、必要に応じてすぐ取り出せるように管理することができた。	A	A	細目ごとに区別して分類しており、見やすくしている。	PCを活用し、効率よい情報共有を展開していく。
		②公文書の作成	速やかな対処をする。	期日厳守だが、極力速やかな文書作成に努めた。	A		内容をよく理解し、期日がある事項については、後送りせず、速やかに対応することができた。	現状維持できるように心掛ける。
		③個人情報の管理、保護	個々の子どもの情報、保護者、家族の情報は口外していない。	個人情報の取扱には細心の注意を払い、学園関係者以外に不要な情報が伝わらないように努めた。	A		HPでの発信も含め、細心の注意をはらっていたので、特段問題はなかった	PCデータにパスワード付けるなど、徹底管理していく。
		④情報の収集	園運営上必要となる情報を積極的に収集する。	行事後の記事掲載など、情報発信を速やかに行うことができた。	A		スマートフォンからでも情報が見やすいように改善しており、募集力の向上にも繋げている	今後も本園からの情報を滞ることなく、また、見やすく、わかりやすく発信できるように心掛ける